

# 評価項目

・5段階評価： 5 (favorable) ～ 1 (not favorable)

カテゴリー	項目	説明
A.安定供給性	A-1 量的インパクト	日本のエネルギーフローに対する量的効果
	A-2 資源入手の容易さ	エネルギー資源確保の困難や各種リスクの回避 <sup>※1</sup>
	A-3 供給変動性	時間的・季節的変動性、不規則性
	A-4 緊急時・事故時適用性・対応性	突発的な災害時・事故時の対応性
B.環境性	B-1 温室効果ガス排出量	年間の温室効果ガス排出量(CO <sub>2</sub> 、CH <sub>4</sub> 、N <sub>2</sub> O、代替フロン等3ガス) [t-CO <sub>2</sub> ]
	B-2 環境負荷リスク	B-1以外の大気・水質・土壌等汚染リスク
	B-3 放射能汚染リスク (今回は対象外)	事故発生の可能性、事故時の被害の深刻さ
	B-4 食料生産、生態系保全等への影響	食料生産との競合や生物多様性を含む生態系保全への悪影響など、自然環境の劣化影響

## 評価項目(つづき)

C.経済性	C-1 費用対効果	費用対効果、ビジネスインセンティブ(EPR、EPT、リードタイム等も参考)
	C-2 経済効果の大きさ	拡大が期待される産業の規模(市場、雇用)、エネルギーフローに対する量的効果の金額換算
	C-3 費用の制約	研究開発費用や社会導入・維持費用が、研究開発推進・実用化のボトルネックとなる度合い <sup>※2</sup>
	C-4 技術の海外展開	製品輸出や産業としての海外展開の可能性
	C-5 波及効果	関連産業誘発効果、デメリット回避など
D.その他	D-1 政策との整合性	日本のエネルギー関連政策との整合性
	D-2 研究開発の国際優位性	当該技術に関する現在の日本の研究開発力 <sup>※3</sup>
	D-3 技術の国際優位性	当該技術に関する現在の日本の産業競争力
	D-4 学術的価値	科学的な独創性、新規性、挑戦度合い <sup>※4</sup>
	D-5 研究開発基盤	研究開発を担う研究者・技術者コミュニティ(学協会等)の現在の規模・国内外での活動度合い・成果の学術的な影響力、および研究開発設備の整備状況
	D-6 技術の社会的導入に対する障壁	技術導入時の社会的な要因(機会 <sup>※5</sup> 障害 <sup>※6</sup> を踏まえて)

※2 研究開発費、導入時の初期コスト、運用コスト、系統安定化対策コストなど

※3 基礎研究、応用研究、開発研究

※4 「全くの新規ではないが引き続き学術的に重要度が高い」課題なども含む

※5 政策的な支援(FITなどの補助金制度、規制緩和)、社会受容性の変化など

※6 規制の厳しさ、市場の閉鎖性、業界の保守性、省庁縦割りの弊害、既存インフラの有無など